

美濃陶芸の世界 存分に



2021年度の美濃陶芸作品永年保存事業選定作品が展示された会場＝多治見市虎渓山町、とうしん美濃陶芸美術館

とうしん美術館で所蔵品展

「とうしんコレクションⅣ」所蔵品でみる美濃陶芸の世界」が、多治見市虎渓山町のとうしん美濃陶芸美術館で開かれている。東濃信用金庫が「美濃陶芸作品永年保存事業」で選んだ作品を中心に、76点を展示している。4月2日まで。

茶わんほか、故青山貴秀さんの灰釉の器「緑彩容」、打田翠さんの炭化焼成させた「ランドスケープ」、青木岳文さんの泥しように粒状に積み上げた「シンダー」など。昨年死去した伊村徳子さん（瑞浪市無形文化財技術保持者）の陶人形、その夫で同じく同市無形文化財技術保持者の故彰介さん

の織部、土岐市無形文化財保持者の故中島正雄さんの高麗青磁作品も特集した。同金庫の新社屋完成に伴い寄贈された加藤孝造さん（人間国宝）が描いた四季の風景の連作などもある。上席学芸員の與語小津恵さんは「新しくコレクションに加わった作品を中心に展示した。美濃陶芸の世界を楽しんでほしい」と話している。（箕浦由美子）